

10月29日に全国障がい者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」が開会します。全国から14の正式競技に3300人を超える選手が参加する予定です。栃木県からは303人と最も多く、うち足利市からは〇〇人の選手が参加するとのことで、地元選手の活躍が期待されます。

足利市においては、フットソフトボール（フットベースボール）とボウリング競技が行われます。

ここ数年、台風やコロナの影響で、栃木県の障がい者スポーツ大会もなかなか開催できなかったのも、選手の皆さんにとってはまさに待望の大会ではないかと思えます。

数年前に、私は息子の担任の先生から「障がい者アーチェリー」を紹介していただきました。この先生が中心となり、数人のボランティアの皆さんと一緒に熱心に取り組まれています。県内各地で体験会を開催し、アーチェリーの魅力はもちろん、家から外に出てスポーツに触れることの楽しさを伝えている活動に感銘を受けました。こういった活動により、足利市障がい者スポーツセンターで行われている練習には、市外から参加している人もいます。

練習では、畳を運び、並べ、そこに「^ま的」を張り、矢を放った後にはその矢を回収する、そして最後に片付けをするわけですが、みんながとても仲良く、和気あいあいと楽しい時間を過ごしている様子や、選手が真剣に練習する様子を目にしました。障がいのある人もない人も、お互いから負担感のようなものが感じられず、気持ちが通じ合っているような気がしました。私

自身、とても勉強になりました。

障がいのある人たちが、やりがいや目標を持って楽しくスポーツに取り組める機会をもっと増やしていく必要があります。そして、そこには支える側の人たちの存在も重要であることを学びました。

（障がい者スポーツ大会の準備、運営に当たっては、例えば、車いすの方々が宿泊先で、エレベーターの中での方向転換ができるか、室内のトイレやお風呂の使用に不便はないか、また、大会を支援してくれるボランティアスタッフの方々が集ってもらえるか等の課題があり、これまで県議会議員のときにも担当職員さんと議論してきました。） ※長すぎたら削除

今大会を通じて多くの方々に障がい者スポーツへの関心を持っていただき、障がいのある人がスポーツにチャレンジできる機会が増えるとともに、支える側の人たちも増えることにつながれば、大会のレガシーとしてとても素晴らしいことであると思っています。皆様のご理解とご支援をお願いいたします。